

～6次産業化で広がる攻めの農業～

従来から普及指導活動の一環として取り組んできた「流通加工支援、販路拡大支援、女性の起業支援」等、農業・農村の6次産業化の推進が「生産者の所得向上、地域の活性化」の観点から、今、大きな注目を浴びています。

そこで、これまで普及指導員が関わってきた事例として、①「そばの里」づくりによるそばの商品化・ブランド化(青森県)、②生産者と伊香保温泉観光旅館等との協働による地域活性化(群馬県)、③6次産業化を図るための人材の育成(三重県)、を参考に、「マーケティング等の視点を取り入れた、消費者等との連携強化のための普及指導・支援の考え方」や「具体的な支援のポイント」等、多様な視点でのパネルディスカッションを展開します。※事例の紹介が裏面にあります。

各地の6次産業化事例も展示しますので、多数のご来場をお待ちしております。

○日 時：平成22年11月11日(木) 13:30～16:00

参加無料

○場 所：東京大学安田講堂(東京都文京区本郷7-3-1)

○内 容：パネルディスカッション

コーディネーター

星野康人氏(ホシノ・アグリ・コミュニケーション研究所代表)

パネリスト

鎌田秋吉氏(フードコーディネーター、愛媛県農産物販路開拓・商品開発アドバイザー)

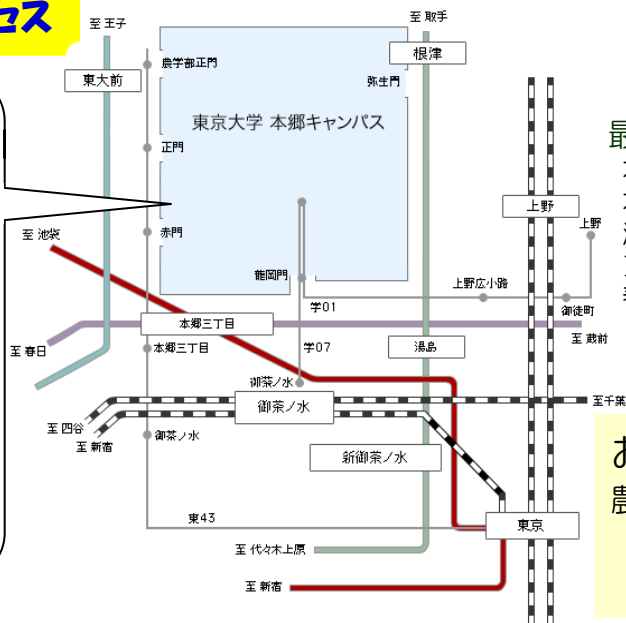
佐藤隆志氏(青森県東青地域県民局地域農林水産部農業普及振興室主幹)

佐藤正美氏(群馬県中部県民局中部農業事務所普及指導課渋川地区農業指導センター長)

山戸竜基氏(三重県農水商工部マーケティング室主査)



会場までのアクセス



最寄り駅

- 本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線) 徒歩8分
- 本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線) 徒歩6分
- 湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線) 徒歩8分
- 東大前駅(地下鉄南北線) 徒歩1分
- 春日駅(地下鉄三田線) 徒歩10分

お問い合わせ先

農林水産省生産局技術普及課

TEL: 03-3501-3769

FAX: 03-3597-0142

①「そばの里」づくりによるそばの商品化・ブランド化(青森県)

背景

東青地域のそばは主に水田転作で作付面積は約1,000haと県内一だが、排水不良等により収量・品質レベルも上がらず、農家の生産意欲は必ずしも高いとはいえないことから、新たな東青ブランドの確立や農業所得の向上を目指した、そばによる地域農業の活性化が求められている。

活動内容

- ・生産者、加工業者、そば店等で構成される、東青そば海道づくり推進事業検討会を設立
- ・東青産そばのネーミング、オリジナルメニューの開発、各種イベントの開催等を支援
- ・観光客をターゲットとした地元食材を組み合わせた新商品(「鴨南蛮そば」など)の開発を支援
- ・ニーズの把握や取扱店の拡大など、実需者ニーズに応じた販売拡大を支援

活動成果

- ・東青産そばは、平成21年度実績で2生産組織が市内のそば店7店舗に4.5tの玄そば・そば粉を供給しており、平成16年度と比較して約10倍に増加
- ・管内のそば加工組織は4組織に増加(平成14年度対比2組織増)、そのうち2組織は常設店舗を設置するなど販売額も年々増加
- ・21年度は当検討会を発展的に解消し、新たに「あおり海道そばブランド推進協議会」を設立



②生産者と伊香保温泉観光旅館等との協働による地域活性化(群馬県)

背景

担い手の生産意欲向上のため、地元を代表する観光地「伊香保温泉」をターゲットとし、伊香保温泉とその周辺の観光による消費の獲得に向けた「観光資源や特産品を活用した付加価値の創出」、「農家のマーケティング能力向上と販路開拓」による“攻めの農業”を提案して、担い手の所得増加を伴った地域農業のさらなる発展に資することとした。

活動内容

- ・農業と商業のネットワーク化とビジネス面でのマッチングを支援
- ・農産物流通システムの提案・構築支援
- ・渋川広域農業と伊香保温泉とのネットワークづくりに主眼をおいた特産品開発・高付加価値化への支援
- ・主体的な広域農業振興のための体制整備を支援



【伊香保温泉でのリンゴのプライベート：皮むき競争】

活動成果

- ・「伊香保温泉」への農産物流通システムが構築され、利益を生み出すビジネスモデルとなりつつある。
- ・女性起業と女将会(お香女会)との連携が生まれ、農業と商業分野でそれぞれ活躍する女性たちの新たなネットワーク活動が開花し、地域農業と伊香保温泉の活性化が図られた。

③6次産業化を図るための人材の育成(三重県)

背景

地域経済活性化のため、特徴ある資源の商品化を促す「地域資源活用」や異業種が連携することにより、付加価値の高い商品を生み出す「農商工連携」が注目されている。これらの取り組みを成功させるため、創意工夫をこらし自ら売れる商品づくりにチャレンジする意欲的なキーパーソンが欠かせない存在となっている。

活動内容

- ・地域資源を生かし、自ら商品づくりにチャレンジする意欲的な事業者の方々のノウハウの面で応援する仕組みとして、三重ブランドアカデミー事業を実施

活動成果

- ・地域資源活用機運の醸成が図られた。
- ・地域資源の特徴を活かし、発信できる人材育成が進んだ。
- ・成功モデル事例が創出された。

